

平成 17 年 12 月 14 日

「あいち花と緑を活かした健康増進地域づくりフォーラム」設立準備会
(第 1 回)

1 日 時 平成 17 年 12 月 14 日 (水) 13:30~16:10

2 場 所 あいち NPO 交流プラザ 会議室 C

3 出席者 資料 1 「出席者名簿」のとおり

4 議 題

(1) 開会挨拶 (事務局)

- ・「あいち花と緑を生かした健康増進地域づくりフォーラム」設立準備会につきまして、みなさまのご協力のおかげで、本日、開催の運びとなりました。
- ・今年 4 月 29 日に、「園芸福祉シンポジウム in 名古屋」が NPO 法人日本園芸福祉普及協会主催、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、愛知県、名古屋市、愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会、中日新聞そして、中部電力の後援で開催しました。
- ・シンポジウム開催後、この活動をこの地で継続発展していくために、勉強会を発足させたいと後援いただいた関係機関の皆さまと話していたことが、今回ようやく実現しました。
- ・中部電力は、名古屋港の潮見埠頭に、新名古屋火力発電所 7、8 号系列の建設に伴う地域共生施設として、自然風庭園 名古屋港ワイルドフラワーガーデン・ブルーボネットを平成 14 年 4 月から開園している。ワイルドフラワーと多様な 22 のガーデンをご覧いただくだけでなく、当施設を活用した園芸福祉活動を通じて地域社会に貢献していくことを実践している。
- ・そして、園芸福祉活動に取り組んでいる各種社会福祉団体、自治体、医療機関や NPO が加わり、その活動を県下に広げていこうと今回の開催に至った。
- ・この設立準備会を皆さまの知恵とネットワークの交流の場として活用いただき、万博や中部国際空港などで元気だと評判のこの地域が、ますます元気になるような活動を生み出すフォーラムを皆さまとともに作り上げていきたい。

(2) フォーラムの趣旨について (事務局)

- ・資料 2 「あいち花と緑を活かした健康増進地域づくりフォーラム」企画案にもとづき、説明。
- ・園芸福祉活動をとおして、地域の人々が「花やみどりを育て、仲間をつくり、みんなで幸せになる」ために、産官学民が連携・協働し、理論の追求と実践に取り組む。
- ・健康増進、高齢者や障害者まで含めた福祉、農業生産や食育はじめ多方面にわたる効果が期待できるが、自分たちがどのような関わりがあって、これからの仕事・活動にどのような付加価値をつけられるか、ということと一緒に勉強していきたい。
- ・活動は、当面、準備会という形をとり、勉強会をしながら、情報収集、議論の場とする。その上で、平成 19 年 3 月頃に NPO 法人を立ち上げ、その中で公開シンポジウム、分科会を開催し、その成果を世間に問うという形にまでしていきたい。智恵、情報の交流空間として、産学官民の連携と協働を推進するハブとしての役割を担う。

(3) 講演1 「花と緑を活かした健康づくりの目指すもの」

講師：吉長成恭氏

(広島国際大学大学院教授、NPO法人日本園芸福祉普及協会副理事長)



- ・日本園芸福祉普及協会は、省庁再編を控えた時期に実施された関係各省庁の勉強会に参加した際に、園芸福祉活動を全国で展開していく時にどのような組織がいいのか、ということ相談したのが発端である。財団で行うと活動が狭まるという懸念があったところ、折しもNPO法案が通過したこともあり、公益特定法人として活動することとなり、組織化しました。
- ・園芸福祉活動も活発になってきており、全国大会も毎年開催しているが、年々参加者が増えてきている。
- ・園芸福祉活動は、地域づくり、教育問題において大事である。もともとの言葉自体にもみんなに広がっていく、という意味があるし、特定の者だけでなく一般の者すべてが日常生活の中でしあわせを感じるもの、という意味がある。
- ・ところで、暮らしやすい豊かな社会の実現のためには、ソーシャルキャピタル（地域の絆資本）が必要である。ソーシャルキャピタルを形成するものは、ネットワークであり、市民活動、ボランティア、NPOなどで循環していくことであり、そうしたものが多いことが必要である。最近の小児をめぐる悲惨な事件をみると、こうしたことを実感する。
- ・ボランティアの活発な地域は、犯罪発生率、失業率が低い一方、子育て支援のグループの存在などから出生率が高いという結果も出ている。
- ・ちなみに、地域別では、島根県、大分県が活発である。都市部の東京、大阪、兵庫が特に低い。愛知県も低い方である。
- ・こうしたソーシャルキャピタル（地域の絆資本）を地域に増やしていったら、豊かなくらしやすい社会を実現するためのひとつの方法として、園芸福祉活動がある、というのが基本的な考え方である。言葉を変えれば、「植・仲・楽」（植物と共に、仲間をつくり、楽しく過ごす）という概念を実現することである。要は、場所があつて、仲間をつくり、植物と一緒に、小さなビジネスモデルを考えながら、あるいは高齢者雇用、障害者雇用

も考えながら、みんなでやっ払いこう、実践していこうという活動である。

- ・こうした活動について、科学的根拠を示そうという動きもあり、千葉大学での「園芸療法の科学的解明と健康福祉ビジネスへの適用」や、山口大学での研究の事例などがある。ただ、なかなかデータを出すというのは難しいが、データが出なくても、一方で結果として医療効果が上がったりするという例も見られる。たとえば、九州がんセンターでは、花を植える作業をやることにより、治療効果がみられるというケースもある。
- ・別の観点からは、子供たちの、むかつく、きれる状態について、脳ネットワークの研究報告がある。脳には、長期的利益追求、短期的利益追求の部位がある。ゲームなどは後者の例であるが、前者をのばす方法として、コミュニティのアプローチ、たとえば植物について、土を耕し、種を植え、発酵するのを待って、花が咲いて…、という一連の過程を家族や地域で共有する、といった方策もある。
- ・いろいろと雑学めいた話をしたが、地域の見えざる資本をどうやって測るかということについてのアイデアを、本日、紹介させていただいた。

(4) 講演2 「花と緑を活かした健康づくりの実践」

講師：近藤まなみ氏

(岐阜県立国際園芸アカデミー客員教授、フラワービレッジ倉渕生産組合)



- ・客員教授などの肩書もあるが、本業は、群馬県の山奥の倉渕で、花の農場、フラワービレッジ倉渕を経営している。始めた経緯は、いろいろな境遇の人たちが一緒に働ける、生活していける場所をつくりたいという観点から、時代背景も考慮し、これからは花の時代だということから始めた。
- ・農業の多面的機能として、生産機能以外に、①健康 ②医療・福祉 ③環境 ④教育 ⑤QOL生活の質の向上 ⑥コミュニティー などがある。現場では、これらの機能は複合的に絡んでおり、それが園芸福祉ではないかと思う。
- ・遊休地を活用し、花の生産作業を始めたわけであるが、しばらくすると、その花を見に

人が来るようになった。すると、周辺の荒れた土地の地主も恥ずかしいということで、荒れ地の整備をした。また、作物をつくるようになり、近所の人に分けたり、物々交換をしていく中でコミュニティが生まれ、今までよそよそしかった地元の人たちが一緒に作業するようになった。地元の人たちからは、自分たちのところでも農作業をしているが、この農場に来ると楽しい、という感想が聞かれる。

みんなと和気あいあいと話をし、お茶を飲んだりしながら農作業をするというコミュニティが生まれたが、これはまさしく、園芸が持つ、人と人を結びつける効果であり、みんなですることによって3Kのイメージが強い農業が健康的な園芸活動としての意味合いをもつこととなった。

このように、農場で花をつくれれば、環境的にも今まで荒れていた土地がきれいになり、自分の土地だけでなく、向かいの畑までもきれいになったりと、いろいろな魅力が総合的に現れてくる、というのが多面的機能の実際のところである。

- ・園芸福祉活動には、いろいろな分野があり、病んでいる人、ハンディキャップを抱える人たちのみならず、すべての人が元気になれる、それが園芸福祉の考え方である。すべての人たちが園芸をとおして活躍できる場は、どんなところかを考えていくと、実に多くの場面が挙げられる。こうした活動のひとつひとつは、既に行われていたり、進行しているものもたくさんある。たとえばグリーンツーリズム、市民農園、街おこしなどがあるが、これらを単独でみた場合、日本でどの程度定着しているかといえ、今ひとつ日本の制度にあっていなかったというのも事実である。これらを、あらためて園芸福祉というキーワードで見ていくことが必要である。
- ・また、健康というキーワードのもとに、5省庁が連携し、「健康的な地域づくりと健康増進を視点とした地域活性化方策実証調査事業」が行われ、当該農場も、園芸福祉の里という位置づけ・モデルプランとして、調査が実施された。具体的には、スローライフ、スローフードの体験や園芸福祉にかかわる作業などを2泊3日で実施し、心身のリフレッシュや癒しの効果を検証した。参加者にはいろいろな方がいただいたが、一様にみな作業に熱中・没頭し、満足して笑顔で帰っていった。
- ・健康調査の結果、プログラム実施前後で、ストレス症状など、57%もの参加者に改善傾向が見られた。こうした結果は、駒ヶ根で行った健康の駅ツアーでも同様に見られた。
- ・そのほか、病院のリハビリテーションでの活用もしているが、結果的に、リハビリ効果ばかりでなく、ひとつのコミュニティの場所になってきており、園芸福祉的な効果が見られる。
- ・このほか、授産施設での園芸福祉活動、ディケアサービスの中で療法的園芸活動など、いろいろな場で展開されている。
- ・モノの時代から心の時代へ、少子高齢化、安全・安心ニーズの高まり、心の病気などの社会問題が顕在化する中、しあわせな人間らしい暮らしへの欲求が高まっており、園芸は今後ますます注目されていくであろう。
- ・実際に園芸福祉活動を広めていく中で、現場では、活動場所がない、逆に場所はあるが指導する人材がない、継続していくための仕組みづくり、などが問題となっている。さらにいえば、みんなが元気になること、人と人を結びつけることが園芸福祉活動の理念であり、いかに参加しない人々を呼び込んでいくかということが大きな課題である。いずれにしても社会のニーズにかなっている園芸福祉活動は、これからの時代の中で、大きく展開が期待される分野である。

(5) 今後の進め方について（事務局）

- ・資料5「あいち花と緑を活かした健康増進地域づくりフォーラム」設立準備会の基本的な考え方にもとづき説明。
- ・当面、準備会という形で、今後1年間、いろいろな勉強会を実施し、メンバー同士で話題提供し、外部の講師を交えての議論を通じて問題意識を高め、フォーラムの活動計画をつくっていききたい。

(基本的な考え方)

- ・県内各地で、いろいろな団体が花と緑を活かした活動を展開している。特に、愛知万博を契機に花による地域の美化に取り組んだ市民団体が多い。
- ・これらの取り組みをさらに広めながら、健康づくりや新ビジネス、地域づくりなどへ発展させていくために、情報交換会や勉強会の場づくりを進める。
- ・進捗度合いに応じて、各々の情報と知恵を持ち寄り、健康増進地域づくりに向けた活動計画を立案する。
- ・活動計画は、平成18年度末を目途に社会からの評価を求めるため発表する。
- ・準備会の活動と並行して、産官学民が参加するフォーラム設立に向け、参加団体（者）を募集する。

(フォーラム設立準備会の運営)

- ・準備会の期間は一年間とする。この間に、参加者の理解度向上と参加者間の連携強化を図る。
- ・協議により設定したさまざまなテーマに沿って、参加者輪番で講師を務める。テーマ案も記載してあるが、みなさんからもご提起いただきたい。
- ・1年後のフォーラム設立に向け、そのスキーム（規約、役員、会費等）を固める。
- ・事務局は当面は中部電力が日本園芸福祉普及協会等と連携して務めるが、順次、準備会参加者の中から事務局に参加していただく。
- ・準備会参加者への連絡事項については、メーリングリストを使って連絡する。
- ・準備会参加者は勉強会へ参加することとする。但し、参加旅費等が必要な場合は、各所属での負担とする。



(6) 質疑応答

・愛知県健康福祉部 稲葉主任主査

公園といえば児童向けが一般的であるが、今後は、高齢者にやさしい、高齢者も使える公園づくりが必要になってくると思うがどうか。

・吉長副理事長

緑地管理と保健福祉を一緒に考えるというのは画期的である。高齢者の公園利用については、都市部での高齢者3,000人を対象に公園でのゲートボール経験を調べたところ、10年前では12%であったのに対し、現在ではその3分の1以下にまで減少している。そうした例からすると、高齢者向きという一面をもって公園整備するのは疑問である。

アメリカでは、公園のベンチ設置に市民からの寄付を募り、平和のメッセージを残すことがある。おもしろい事例があり、ベンチの後ろに書かれていた寄付理由として、「自分たちの両親は、ここに座って、ここから見える景色、公園の樹々を眺めるのがとても好きだった。」という子供たちからのメッセージが書かれており、それを地域の人々が共有する、という心温まる話もある。それを聞いた孫たちが、自分たちのお爺ちゃん、お婆ちゃんはここで二人仲良く景色を見ていたんだ、ということが伝えられていく。

もともと公園は緊急避難地としての効用も高いが、もっと多方面で機能を果たすべきである。たとえば、暴走族の若者が、障害者と一緒に公園での緑化プログラムに参加し、更正できたという美しい話もある。

こうした事例から、公園をもう少し活用する手段として、世代間交流プログラムのなものが一番よい。公園にモノを設置する時に、みんなが楽しめる、自分たちの生活のひとつとして利用できるような公園という視点が必要である。

・事務局

コミュニティに関連して、少子高齢化が進む中で、既存の住宅団地において、児童公園ばかりで高齢者が憩える場所がないなど問題があるかと思うが、都市再生機構の方から何かコメントをいただきたい。

・都市再生機構中部支社 瀬木マネージャー

主にニュータウンを手がけてきたが、今まではこちらで施設をつくり、「どうぞお使いください」というスタンスだった。今日聞かせていただいた花と緑を活かした取り組みは、市民でつくりあげていくプロセス自体が、人づくり、健康づくりに役立つということで、非常に参考となった。

・吉長副理事長

先般、福岡で園芸福祉全国大会を開催したが、韓国から公営住宅の管理者の方々が出席された。韓国では賃貸が多く、コミュニティの崩壊が生じており、その対策の一環として園芸福祉に取り組んでいるとのことであった。

- ・名古屋産業大学 環境ビジネス学部 宮田講師

園芸福祉士の育成は、どのようにしているのか。

- ・吉長副理事長

園芸福祉士養成講座を全国で展開している。約20時間の講座を受講し、認定試験を経て園芸福祉士となるが、試験よりも実践を重用視している。実践の例としては、各自治体でこのプログラムを受けた方が活躍しており、たとえば、岐阜県の園芸福祉サポーター、名張市の園芸福祉指導員制度、その他、職員研修での利用などさまざまな場で活用されている。農業高校の先生が園芸福祉士の勉強をし、自分たちの高校で普及活動を展開している例もある。また、最近では、高校生が園芸福祉活動に取り組んでいる事例も数多く見受けられるようになってきている。

- ・事務局

ブルーボネットは、花と緑を見て楽しむ自然風庭園、という観点で運営してきたが、最近、参加して楽しむという観点からの取り組みも必要と感じている。そうした観点での名古屋市の取り組みを伺いたい。

- ・名古屋市緑の協会 村上緑化センター長

ボランティア活動の支援として、場所と材料を提供しているが、最初は知らない者同士でも一年もたつと非常に仲良くなり、今日の話に出た緑の多面的な効用は実感している。一方、基本的にリーダーをやりたいがらない、自分が楽しみたいという人が多く、参加者が増えてくるに伴い、指導者不足という問題も出てきている。その他、展示会、講習会をとおして、園芸福祉の問題を採り上げており、今回の活動には関心がある。

- ・吉長副理事長

ボランティア活動について、インセンティブがなくなって、自分のことばかりやっ
てしまって仲間意識がなくなっているとのことだが、園芸福祉士養成講座でもっとも重要視しているのは、仲間づくりである。講習会では、世代、性別、職業の異なる者
同士をグループにして、ワークショップを実施している。総じて、講座の参加者の満
足度は非常に高い。いろいろな世代の人と、あるプログラムと一緒にやり遂げる、と
いう経験がある人は、世話人的役割も果たしてくれる。

(7) 出席者自己紹介および今後の抱負

- ・JAあいち中央会 生活部 海道考査役

突然なので、まだ言うことはないが、これから勉強していきたい。よろしくお願
いしたい。

- ・日本福祉大学 研究・教育連携部 千賀部長

知多半島に拠点を置いているが、鶴舞にもキャンパスがある。名古屋市および知多
半島で何か動きが出来ればと思う。

- ・日本福祉大学 研究・教育連携部社会連携課 伊藤氏

社会連携課におり、企業、自治体とのさまざまな連携を主な仕事としている。団塊
の世代をテーマにした企業の市場に向けての取り組みで、園芸福祉をひとつの切り口

にしてもおもしろいのでは、との感想をもった。

- ・愛知県 環境部環境政策課 福田主事
環境教育を担当している。農業とか自然は、環境教育のテーマとしてあり、今後、園芸もテーマとして採り上げるのはおもしろいと思う。今後、いろいろと興味深い話を聞かせていただきたい。
- ・美浜町 総務部企画開発課 竹内係長
今年、全国里山大会、ガーデニングサミットを美浜町で行った。今日の件を帰って報告すると、一体、町としては何をやるのか、どこが主体となるのかという話になる。また、みなさんから、よい智恵を拝借したい。
- ・名古屋植木 堀田社長
造園屋は、他人のお金で自分の造りたい庭を造る、いわば園芸福祉そのものを実践してきた。いかに土に触れることが大事かということを日々、身にしみて感じている。現実はどういう立場でお手伝いできるかわからないが、帰ってよく考えてみたい。
- ・名古屋市福祉協議会ボランティアセンター 高橋主事
社会福祉協議会にとって、地域での福祉活動をどのように進めていくかが本来事業であるが、そうしたところに、園芸福祉という視点でどのように盛り込んでいったらいいのかとの問題意識のもと、参加させていただいた。今後、一緒に勉強していき、どういった取り組みが出来るのか考えていきたい。
- ・愛知県 産業労働部産業労働総務課 久保田課長補佐
産業労働部には多くの課題があるが、健康長寿産業、地域ビジネスへの取り組みも始めている。今日の話に出た園芸福祉活動は、今まで馴染みのない話であったが、今後、勉強していき、関わっていきたい。
- ・愛知県福祉協議会 総務部 矢田部長
今回の園芸福祉活動について、自分たちの業務で、どうやって関わっていけばいいのか、と思うところである。県下には、社会福祉施設がたくさんあるが、実際に園芸福祉活動を実践しているところもあると思うので、情報収集しながら考えていきたい。
- ・愛知県 農林水産部農林総務課 澤中主幹
農林水産業をどのように振興していくかが仕事。愛知県は、農業生産が全国第5位で、花卉はずっと日本一である。農業は食料生産という機能以外に、自分たちの生活に関わるいろいろな役割を持っている。そうした役割は、農林水産業の生産高の3倍、県税1兆円くらいの貨幣価値があると言われている。園芸が、福祉の場面でいろいろ貢献できるということであれば、間接的に農林水産業の発展につながるだろう、というのが自分たちのスタンスであり、そうした意味で、出来るところで協力していきたい。
- ・愛知県 農林水産部園芸農産課 山口主査
仕事で、直接的に園芸福祉という形はとっていないが、消費拡大活動で展開しているイベントの中で、こうした考えを取り入れた中日新聞が事務局をしている学校花壇コンクールについて、当部と教育委員会が共同で取り組んでいるが、これらの仕事は今日の話につながっている、という自負はある。個人的にも興味ある分野なので少しずつ勉強していきたい。

- ・日本園芸福祉普及協会 横井氏

以前、大府にある愛知小児の森について、障害児の親という立場で、ワークショップに参加し、どうにか形にはなったが、当時は園芸福祉について愛知県でも成熟しておらず、雑木林の活性化というところで終わってしまった。本来、園芸福祉、癒しという部分までやりたかったが、土壌がまだ出来てなかった。ようやく、今回、こういう形でやれるチャンスが巡ってきた、との思いで本日参加させていただいた。今後ともよろしくお願ひしたい。

- ・愛知健康づくり振興事業団 指導課 平井課長補佐

昨日、豊根村まで介護指導に行ったが、雪の中、9名の参加者が待っていた。豊根村でも健康を欲している方はみえて、楽しみに待っていたという。県中、いろいろなところを巡回しているが、「場」を提供するということが大事と実感している。プラザなど環境が整っているところはよいが、そうした施設がないところでは、家庭でのトレーニングなどの実践指導もするが、やはり仲間づくりが大切である。豊根村は立派な保険センターがあるが、そうした施設で、みなが仲良くやれたらと思う。今回の件も、いい場を提供し、連携をとってやっていけば、素晴らしい活動が出来ると思う。

- ・都市再生機構中部支社 業務部 瀬木マネージャー

昨年7月に、都市基盤整備公団から組織改定があり、独立行政法人となった。5年前には住宅都市整備公団で、街なかの賃貸住宅、ニュータウン事業などを行い、これからは、都市の再生ということで、街なかのリニューアルに携わっている。エリアは東海3県が中心で、本日のメンバーには、知多半島の市町村、日本福祉大学があるが、常滑の地域でまちづくりをさせていただいているし、名古屋産業大学にもいろいろとお世話になっている。この勉強会は、情報交換や、みなさんの意見を聞ける場として、参加させていただきたい。

- ・愛知県 建設部公園緑地課 柴田主査

都市公園と都市緑化を主業務としている。最近思うのは、緑だけではなく、花も非常に大事ということであり、力を入れていかねばならない。情報交換のほか、いろいろ教えていただければと思う。

- ・愛知県 建設部公園緑地課 安藤技師

公園の企画を担当。今日は代理で来たが、いろいろな話も聞いたので、また機会があれば勉強させていただきたい。

- ・環境創造研究センター 企画総務部 阿知波課長

以前、園芸福祉士の育成講座を受けさせていただき、来年の試験に向けて勉強中であるが、実際に何が出来るかということはまだ見えてないので、いろいろな意見を聞いて、活動していかなければならない。

- ・愛知県 健康福祉部医療福祉計画課 稲葉主任主査

本来は福祉事業、医療計画の作成が仕事であるが、超高齢化社会を迎え、高齢者対策に仕事がシフトしている。高齢者が生きていてよかったと思える健康長寿社会づくりに、どんな方策があるか、健康長寿・愛知プロジェクトということで、多くの方々と接触しながら進めている。これからもいろいろと智恵を拝借したい。

・中部電力 環境・立地本部 小林立地グループ長

本日は、フォーラムの設立準備会にご参加いただきありがとうございます。今後も活動へのご参加をよろしくお願いいたします。あらためて、みなさまに、なぜ中部電力の立地部という部署がワイルドフラワーガーデン・ブルーボネットに関係するかということをお知らせすると、もともと新名古屋火力発電所の用地を確保して工事が出来る準備を当部が担当し、火力発電所の建設に伴い、地域共生施設であるブルーボネットを設けたということで、私ども立地部が担当しております。

さて、今回の活動については、現在、ブルーボネットでの園芸福祉活動として、福祉施設等の方にもご来園いただき、実践活動を進めております。今後の園芸福祉活動にご協力をお願い申し上げます。

なお、ブルーボネットは、年末から2月までは休園、3月から開園いたしますので、ご来園の方も是非お願いいたします。

本日はありがとうございました。

(8) 閉会挨拶（事務局）

今後の進め方については、先ほどお話申し上げたとおりのフォーラム設立準備会の基本的な考え方および運営の考え方にもとづき、準備会という形で、今後1年間、いろいろな勉強会を実施し、フォーラムの活動計画をつくっていきたい。

なお、来月、第2回の開催予定は、資料に1月23日としてありますが、また日程、テーマを調整し、別途連絡するのでご参加いただきたい。

今後ともご協力お願い申し上げます。本日はありがとうございました。

5 配付資料

資料1 「出席者名簿」

資料2 「あいち花と緑を活かした健康増進地域づくりフォーラム」企画案

資料3 「花と緑を活かした健康づくりの目指すもの」

資料4 「花と緑を活かした健康づくりの実践」

資料5 「あいち花と緑を活かした健康増進地域づくりフォーラム」設立準備会の基本的な考え方

以 上